

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **758** 回

サントリーホール

2024年 **3月22日(金)** 19:00開演 18:30~
23日(土) 14:00開演 13:20~

フレートク
広瀬 大介氏

**リープライヒ、4年半ぶりの再登場
～ドイツ・ロマンティック王道のシューマン!**

指揮: **アレクサンダー・リープライヒ**

ヴァイオリン: **辻 彩奈**

三善晃: 魁響の譜

シマノフスキ:

ヴァイオリン協奏曲第1番 op.35

シューマン:

交響曲第3番《ライン》変ホ長調 op.97

©Sammy Hart

©Makoto Kamiya

1回券料金 **S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500**

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

アレクサンダー・リープライヒ 編

聴き手 後藤 菜穂子

—リープライヒさんは日本フィルには2019年に2度客演されており、3度目のご登場となります。これまでの共演を通じてオーケストラにどのような印象をお持ちでしょうか?

日本フィルは大好きなオーケストラであり、しばらく間が空いてしまってさびしく思っていました。奏者のみなさんはすばらしく、またマネジメントや企画サイドもしっかりしており、プログラミングに対してオープンな姿勢を持っている点も大きな特色だと感じています。私はつねに演奏会に自然な形で古典/現代の双方の作品を取り入れたいと考えており、そうしたプログラムを実現させてもらえて嬉しく思っています。初共演の際に演奏したルトスワフスキの交響曲第3番ではオーケストラの真摯な姿勢が強く印象に残っていますし、今回、三善晃の《魁響の譜》を初めて指揮できるのも心待ちにしています。

—リープライヒさんはこれまでも日本の作曲家の作品を数多く指揮されてきているそうですね。

はい、最初に出会った日本の作曲家は細川俊夫さんでした。私が当時、芸術監督をつとめていたミュンヘン室内管弦楽団と彼の作品の初演やレコーディングを行いました。その後、私が韓国のトンヨン国際音楽祭の監督をしていた時代には、日本を含むアジア圏の若い作曲家たちを毎年招いており、日本の作曲界は女性も多く、とても活気があると感じていました。最近では藤倉大さんの作品をヨーロッパでよく指揮していて、2019年にはBBCスコティッシュ交響楽団と小菅優さんの独奏で、彼のピアノ協奏曲第3番を指揮しました。

—初めての作品にはどのようにアプローチされるのでしょうか。

まずはスコア(総譜)を読み込んで、縦の線を追いながら誰が何を弾いているかを確認するところから始まりますが、とくに最初の数ページで作曲家の〈筆づかい〉を感じ取ることが大事だと思います。その点で、私は意外と手書きの楽譜が好きだったりします。たとえば、最近の作曲家でいえば、パスカル・デュサパンのスコアは手書きです。もちろん印刷されたスコアからも、作曲家が頭の中でどういったエネルギーをもって音楽を作り上げたかは読み取れますので、そうしたイメージを大切にしています。

—初共演時のルトスワフスキに続いて、今回はシマノフスキを取り上げますが、リープライヒさんのポーランドとのつながりについて教えてください。

2012年からポーランド国立放送交響楽団の音楽監督を7年間務め、その間にシマノフスキやルトスワフスキからポーランド人作曲家の音楽を数多く演奏し、録音してきました。ですから、ポーランドの音楽を日本のみなさんにもぜひ聴いていただきたいと思って選びました。

今回演奏するシマノフスキのヴァイオリン協奏曲第1番は、後期ロマン派および印象派の様式で書かれた壮大で魅力あふれる作品です。彼のオーケストラ作品は総じて豊潤な管弦楽の扱いが特色で、この曲ではソリストとのバランスに配慮しつつ、いかにオーケストラの豊かな色彩を活かせるかが鍵となります。

ちなみにポーランド放送響の本拠地は南部の都市カトヴィツェにありますが、私が在任中いつも滞在していたホテルの部屋は、昔シマノフスキが滞在していた部屋だったんですよ!

—シューマンの交響曲第3番《ライン》についてはどんな思い入れをお持ちですか?

シューマンは大好きな作曲家です。私はもともと声乐を学んだので、歌曲には親しんできましたし、歌手としての最後のコンサートで歌ったのも《詩人の恋》でした——第6曲ではライン川が歌われますね。

一方で、シューマンの交響曲《ライン》はなかなかむずかしい曲です。指揮者ではなくオーケストラが主役であり、指揮者はオーケストラの内部に入って各声部に耳をすまして、フレージングを合わせ、曲を内側から形作っていく必要があります。その意味では初対面よりも、すでに信頼関係を築いている楽団とのほうが演奏しやすい曲であり、日本フィルのみなさんと一緒にシューマンの世界を創り上げるのを楽しみにしています。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan